

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士は、「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

また評論家の花田清輝は「真にナショナルなのは、実はインターナショナルである」と喝破しま

したが、まさにしょうゆについて述べているかのようです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に受け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化の紹介にとどまらず、「食の国際交流」に少しでも寄与できることを願っています。

キッコーマン国際食文化研究センター



閲覧コーナー



キッコーマンの故郷——野田の町並みに調和させた野田本社



図書コーナー



メディアコーナー



企画展示コーナー

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>

キッコーマン国際食文化研究センター

〒278-8601 千葉県野田市野田250 TEL:04-7123-5215 FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時～午後5時 <休館日>土・日曜日、祝日(年末・年始、ゴールデンウィーク、旧盆)

※詳細は当センターへお問い合わせください。



(表紙の解説)
「ペリー提督・将兵横浜上陸図」
一八五四年(安政元年)陰曆二月十日(正月、日本の開国を求めて来日したアメリカ東インド艦隊司令長官ペリー提督は参謀長アダムス以下約五百名の随員を従え、約五百名の武装水兵に護衛されて横浜に上陸した。続いて約三百名が表紙左手に見える横浜店接所に入り、第一回日米会談が開始された。裏表紙右端は水神社の祠、背後の大木が横浜開港資料館中庭に繁る玉楠の木(横浜市指定地域文化財)の先代と伝えられる。現在、この地域一帯が日米和親条約締結記念の地とされている。原画による石版画(横浜開港資料館所蔵)